

令和

2 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	道路維持修繕事業	会計名称 予算科目	一般会計 8 款 2 項 2 目	事業番号	3470	担当課 所属長名	土木管理課 鍋田豊樹
事業評価の有無	■ 評価対象事業	□ 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	土居正英
法令根拠等	道路法					実施期間	【開始】 令和／平成 17 年度 【終了】 令和 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 人に優しい道路・交通体系づくり						
総合計画における本事業の役割	市民生活をささえる道路としての機能を十分に果たせるよう事業を実施する。						
事業の対象	伊予市が認定、供用を開始し、管理している道路	事業の目的	市道を常時良好な状態に保つように維持、修繕し、一般交通に支障を及ぼさないようにする。				
事業の内容 (整備内容)	舗装補修(小規模)・道路構造物等の修繕・法面保護	昨年度の課題に対する具体的な改善策	対応出来てない次年度以降対応				

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳(千円)							事業活動の実績(活動指標)						
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	2年度予定	9月末の実績	2年度実績	
直 接 事 業 費	53,708	80,014	0	0	20,800	62,119	委託料	千円	5018	22396	3931	9337	
国 庫 支 出 金	206	5,150	0	0	5,150	5,150							
県 支 出 金	0	0	0	0	0	0							
地 方 債	18,500	9,000	0	0	0	9,000							
そ の 他	2,206	2,002	0	0	0	3,856							
一 般 財 源	32,796	63,862	0	0	15,650	44,113							
職員の人工(にんく)数	2.50	3.00				3.00	工事費	千円	35525	56400	7521	51726	
1人工当たりの入件費単価	7,992	7,812				7,812							
※ 直接事業費+入件費	73,688	103,450				85,555							
主な実施主体	伊予市	実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)	請負				その他	千円	325	988	71	344	
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)							3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	5年間の合計	
							80,014	80,014	80,014	80,014	80,014	400,070	
成 果 指 標	指 標	成果を指標化するのは困難である。	→	単位	区分年度	前 年 度	2 年 度	3 年 度	目標	每 年 度			
	指標設定の考え方	請負工事件数を実績とする。		目標		51	97						
	指標で表せない効果	経費節減を図ると安全性に問題が生じる。		実 績		51	97						

事務事業評価（CHECK）

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		パトロールや現地確認の際に直営できることは対応をしている。 (倒木の伐採や落石の撤去等)										
事務事業の評価	事務責任者（事務担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点	工事・業務の道路維持区間をするのが難しい。			
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理業務に対応しておらず、見直しが必要である。	3							
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施は妥当と判断できる。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	5							
		有効性	事業の効果	5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。 4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 3 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業の苦労した点・課題				
			成果向上の可能性	5 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 4 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。 3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。	3							
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に向け、効果を認めることができる。 3 施策推進につながっていない。	3							
	評価所長（一次判定所長）	効率性	手段の最適性	5 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 4 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。 3 活動指標の実績も上がりず、効率的な手段の見直しが必要である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の方向性				
			コスト効率	5 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 4 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。 3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。	4							
			市民（受益者）負担の適正	5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 4 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。 3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4							
		効率性	目的の妥当性	5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 4 概ね、施策の目的に沿った事業である。 3 この事業では施策の目的を果たすことができない。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	所属長の課題認識	■ 事業継続と判断する。 □ 事業縮小と判断する □ 事業廃止と判断する (判断の理由) 市道の維持管理経費であり、円滑な交通の確保と利用者の安全確保を目的としており、事業継続とする。			
			社会情勢等への対応	5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。 3 社会情勢又は行政管理業務に対応しておらず、見直しが必要である。	4							
			市の関与の妥当性	5 市が積極的に関与・実施は妥当と判断できる。 4 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。 3 市は関与しないで、民間や市民団体等に委ねるべきである。	4							

施 策 を 踏 ま え た 判 断	二 次 判 定	<input type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。		指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		<input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。 路面の陥没や破損は、重大事故を招く恐れがありバトロールや利用者からの通報による速やかな情報収集を図り、適切な対応を講じる体制を整えなければならない。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。		

行政評価委員会の答申	外 部 評 価	答申の内容
------------	------------------	-------

今後の方針性（ACTION）

の経 最 終 者 判 会 議	事業の方向性	コメント欄
		<input type="checkbox"/> さらに重点化する。
		<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。
		<input checked="" type="checkbox"/> 見直しの上、継続する。
		<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 事業を縮小する。
		<input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。 事業を休止、廃止する。